

ES/1 NEO

CSシリーズ

インストールガイド

© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2024

**ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.**

"RESTRICTED MATERIAL OF IIM "LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM

目次

第1章 導入プロダクト一覧	1
第2章 動作要件	4
2.1. ハードウェア要件	4
2.2. ソフトウェア要件	4
第3章 ES/1 NEO CS シリーズの導入	5
3.1. 事前準備	5
3.2. セットアップの起動	7
3.3. セットアップの実行	9
3.3.1. 新規インストール	10
3.3.2. バージョンアップインストール	15
第4章 ES/1 NEO CS シリーズのプロダクト追加と削除	20
4.1. 変更／修正	21
4.2. 削除	23
4.2.1. プログラムの追加と削除からのアンインストール	23
4.2.2. メンテナンスプログラム画面からのアンインストール	25

第1章 導入プロダクト一覧

ES/1 NEO CS シリーズ セットアップ DVD からは、以下のプロダクトを導入することができます。

プロダクト名	説明
CS シリーズ	CS-MAGIC、CS-ADVISOR、CS-Network ADVISOR 等がインストールされ、稼働実績グラフの作成やシステムの評価を行います。
pdbmagic/pdbmagic2	pdbmagic/pdbmagic2 は、Control Center が作成した PDB(パフォーマンス・データベース)から、CS シリーズの各コンポーネントの実行に必要なデータを抽出し、フラットファイルに変換します。
CS-SAP ERP (SAP magic)	SAP magic は、SAP ERP 環境で出力したトランザクション統計情報、メモリ統計情報をフラットファイルに変換します。
CS-DB2 (udbmagic)	udbmagic は、UDB snapshot monitor agent が収集したパフォーマンスデータのファイル群を、CS シリーズで取り扱い可能なフラットファイルに変換します。
CS-DB2 (UDB snapshot monitor agent Windows 版)	UDB snapshot monitor agent (Windows 版)は、DB2 データベースシステムから稼働情報(パフォーマンスデータ)を抽出します。
CS-Network Packet Monitor (wmonpost)	wmonpost は、wiremon で収集したデータを CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換します。
CS-WEB Option HTTP Log Processor (log2f)	log2f は、logscn の出力結果を中間フラットファイルに変換します。
CS-VMware	CS-VMware for vCenter Server は、VMware vCenter Server 環境のパフォーマンス統計情報(プロセッサ、メモリ、I/O、ネットワーク、ファイルシステム情報)を収集します。
CS-Hyper-V	CS-Hyper-V は、Microsoft Hyper-V 環境のパフォーマンス統計情報(プロセッサ、メモリ、I/O、ネットワーク、ファイルシステム情報)を収集します。
CS-Virtage	CS-Virtage は、HITACHI Virtage 環境のパフォーマンス統計情報(モニター、HVM システム、LPAR 構成、プロセッサ、メモリ、ネットワーク情報)を収集します。
CS-Java	CS-Java は、AP サーバ上で稼働する Web Application Server から、JVM、実行キュー、Servlet、EJB、JDBC 等の性能情報を収集します。
CS-i5(x2f)	CS-i5 (x2f)は、iSeries のパフォーマンスデータファイルを CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換します。
MF-z/VM(x2f)	MF-z/VM (x2f)は、IBM z/VM のパフォーマンスデータファイルを CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換します。

プロダクト名	説明
CS-MySQL(x2f)	CS-MySQL(x2f)は、MySQL のパフォーマンスデータファイルを CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換します。
CS-KVM(x2f)	CS-KVM(x2f)は、KVM のパフォーマンスデータファイルを CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換します。
APM Interface - Dynatrace(x2f)	APM Interface - Dynatrace(x2f)は、Dynatrace から出力されたパフォーマンスデータを変換し、フラットファイルに格納します。
CS-Oracle AWR(x2f)	Oracle AWR のパフォーマンスデータを変換し、フラットファイルに格納します。
CS-JOB for JP1(x2f)	JP1/Automatic Job Management System 3 のスケジューラログを変換し、フラットファイルに格納します。
CS-CONNECT(etcmgx)	CS-CONNECT (etcmgx)は、任意のアプリケーションから出力されたデータを、CS シリーズに取り込みます。
CS-RMON	CS-RMON は、Zabbix の履歴データを、ES/1 NEO CS シリーズに取り込みます。
CS-Storage	CS-Storage は、ストレージシステムのパフォーマンス統計情報(システム稼働、I/O、ネットワーク、ストレージ容量情報)を収集します。
CS-AWS	Amazon Web Services 環境のパフォーマンス統計情報、構成情報、課金情報を収集します。
Flatfile Maintenance	Flatfile Maintenance は、CS シリーズで使用しているフラットファイル(パフォーマンスデータ)を管理します。
iim configuration assistant	以下のプロダクトの動作設定を行う GUI を提供します。 CS-SAP ERP、CS-DB2、CS-Network Packet Monitor、 CS-WEB Option HTTP Log Processor、CS-i5、CS-MySQL、 MF-z/VM、CS-CONNECT、CS-Utility iim collect
CS-Utility iim clock server	iim clock server は、Windows 環境でタスクスケジューリングを行います。
CS-Utility iim collect	iim collect は、一般的な FTP/SFTP クライアントと同様に、FTP/SFTP サーバに接続し、ファイルを転送します。
Log Utility	Log Utility は、CS シリーズ、Performance Web Service で作成されるプログラムログを管理します。

プロダクト名	説明
管理コンソール	プロダクトの実行、ファイルのダウンロード、システム状況の確認を Web 画面から行います。
Performance Web Service	Performance Web Service は、CS シリーズで作成したグラフ等を一括管理し、Html 形式の Web コンテンツを提供します。
Performance Web Service Uploader	Performance Web Service Uploader は、管理用コンピュータ上のパフォーマンス情報を収集して Performance Web Service サーバに転送し、データベースに登録します。
ES/1 NEO 管理マシン ディスクチェック	ES/1 NEO 管理マシン ディスクチェックは、ES/1 で使用するディスクの空き容量をチェックするためのものです。ディスクの空き容量が少なくなった場合、イベントログやメールでの通知を行います。
CS-Network MIB Collector (トライアル版)	MIB Collector は、稼働監視対象機器の MIB (Management Information Base)情報を収集します。

第2章 動作要件

2.1. ハードウェア要件

CPU	:Xeon 4 コア以上(推奨)
Memory	:16GB 以上(推奨)
HDD	:200GB 以上(収集データ量やグラフ作成量に依存) ES/1 NEO CS シリーズのフルインストールには、最大約 2GB の容量が必要 .NET Framework 4.6.2 のインストールには、4.5GB の容量が必要 ※.NET Framework 4.6.2 は、C ドライブ(システムドライブ)にインストールされます。
解像度	:XGA 1024×768 以上 Performance Web Service を閲覧する際、画面によっては上下スクロールバーが 2 重に表示されること がありますので、解像度「1280×960」以上をお勧めします。
ファイルシステム	:NTFS 推奨

注意！

VMware ESX、Hyper-V 上でご使用の場合は、ES/1 NEO CS シリーズがインストールされたゲスト OS に十分な資源が割り当てられるように設定してください。仮想マシン環境での使用についてご不明な点は弊社担当 SE までご相談ください。

2.2. ソフトウェア要件

ソフトウェア要件については、「サポート環境」の「ES/1 管理用マシン」をご参照ください。

第3章 ES/1 NEO CS シリーズの導入

ES/1 NEO CS シリーズのセットアップ方法を記述します。

Acquire、および Control Center のセットアップに関しては、それぞれ別紙マニュアル「Acquire 使用者の手引き」、「Control Center 使用者の手引き」を参照してください。

注意!

CS シリーズの導入は Administrators 権限を持ったユーザ ID で行なってください。
管理者権限のないユーザ ID で導入すると起動に必要なファイルがコピーできない場合があります。

3.1. 事前準備

注意!

インストール中のファイルコピー処理がウイルス対策ソフトのリアルタイムスキャンの影響を受けることを避けるため、導入作業中は一時的にリアルタイム検索を停止することをお勧めします。

注意!

・Microsoft Windows Server 2012、Microsoft Windows Server 2012 R2、
Microsoft Windows Server 2016、Microsoft Windows Server 2019、Microsoft Windows
Server 2022 をご使用になる場合、
次の設定が必要です。

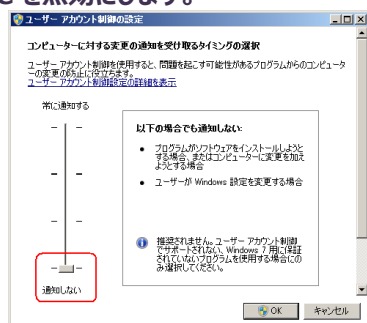
(1) ユーザアカウント制御(UAC)無効化の設定

Administrators 権限を付与したユーザ(Administrator ユーザ以外)で ES/1 を実行する場合に必要です。

ES/1 実行ユーザでログイン後、以下の設定を行ないます。

※UAC が有効になっている場合、設定中に UAC による起動のブロック画面が表示される事があります。
この場合は、[続行]ボタンを押下してください。

- ①「コントロールパネル」を開き、「ユーザー アカウント」を選択します。
- ②「ユーザー アカウント」画面で「ユーザー アカウント」を選択します。
- ③「ユーザー アカウント制御設定の変更」を選択します。
- ④「ユーザー アカウント制御の設定」画面にあるスライダーのサムを一番下に下げ、「通知しない」に設定し、UAC を無効にします。



- ⑤[OK]ボタンを押下し終了します。
- ⑥OS を再起動します。

ユーザアカウント制御(UAC)無効化設定後、以下の確認を行ってください。

- ①「コントロールパネル」の「管理ツール」を開き、「ローカルセキュリティポリシー」を選択します。
- ②「セキュリティの設定」から「ローカルポリシー」を選択し、「セキュリティオプション」を開きます。
- ③「セキュリティオプション」画面右側のリスト内に表示される「ユーザーアカウント制御: 管理者承認モードですべての管理者を実行する」が「無効」となっている事を確認します。
- ④「有効」になっている場合は「無効」に変更してください。
- ⑤設定の変更を行った場合は、Windows を再起動してください。

※「ユーザーアカウント制御: 管理者承認モードですべての管理者を実行する」を無効化した際、サーバ起動時に下記のエラーがイベントログに記録される場合があります。本エラーが発生しても、CS シリーズ動作上問題はありません。

(例) ログの名前: System
ソース :Service Control Manager
日付 :YYY/MM/DD HH:MM:SS
イベント ID :7000
タスクのカテゴリ :なし
レベル :エラー
キーワード :クラシック
ユーザー :N/A
コンピューター :<ホスト名>
説明 : UAC File Virtualization サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした:
このドライバーの読み込みはブロックされています。

(2)タスクスケジューラの設定

タスクスケジューラを使用し、ES/1 をログオフ状態で実行する場合に必要です。

- ①タスクスケジューラに登録したタスクのプロパティを開きます。
- ②「セキュリティオプション」欄にて「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択します。
- ③「セキュリティオプション」欄にて「最上位の特権で実行する」をチェックします。
- ④[OK]ボタンを押下します。
- ⑤タスクを実行するユーザアカウント情報を入力する画面が表示される場合があります。この場合はパスワードを入力してください。

※ パスワードが設定されていないユーザアカウントの場合、タスクの登録でエラーとなる場合があります。

3.2. セットアップの起動

ES/1 NEO CS シリーズ セットアップ DVD をドライブにセットすると Autorun が実行され、下記画面が表示されます。Autorun が起動しない場合は、セットアップ DVD の「x:¥V05LxxRx¥Setup¥Autorun.exe」を起動してください。



(1) セットアップ(S)

セットアップが開始されます。「3.3. セットアップの実行」を参照してください。

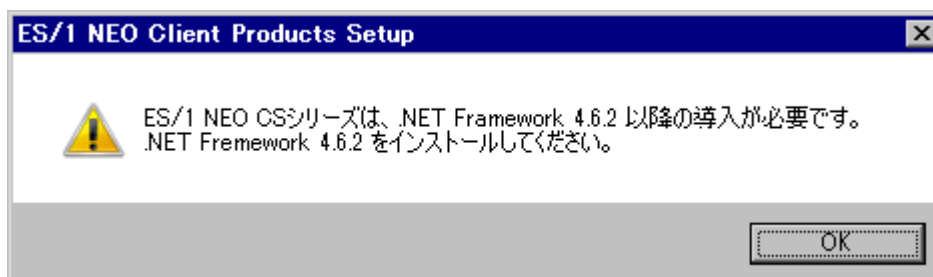
注意!

バージョンアップインストールの場合、2 世代前のバージョンまでを対象としてください。

(例)

V05L18R1 をバージョンアップインストールする場合は、V05L17Rx と V05L16Rx を対象としてください。

ES/1 NEO CS シリーズの実行には、Microsoft .NET Framework 4.6.2 以上のインストールが必要です。Microsoft .NET Framework 4.6.2 がインストールされていない場合、以下のメッセージが表示されます。[OK] 押下後に上記画面の「Microsoft .NET Framework 4.6.2(N)」を選択し、Microsoft .NET Framework 4.6.2 をインストールした後で改めてセットアップを実行してください。



(2)Microsoft .NET Framework 4.6.2(N)

Microsoft .NET Framework 4.6.2 のセットアップが開始されます。

また、セットアップ DVD の「x:¥V05LxxRx¥Tools¥NET Framework」フォルダにセットアッププログラムを格納していますので、こちらを使用してインストールすることも可能です。

・ndp462-kb3151800-x86-x64-allos-enu.exe

Microsoft .NET Framework 4.6.2 以降がインストール済の場合は、このメニューは表示されません。

(3)マニュアル(M) (DVD 版のみ表示されます)

PDF マニュアルのトップページ(Index.pdf)が表示されます。

PDF マニュアルの閲覧には Adobe® Reader®が必要です。

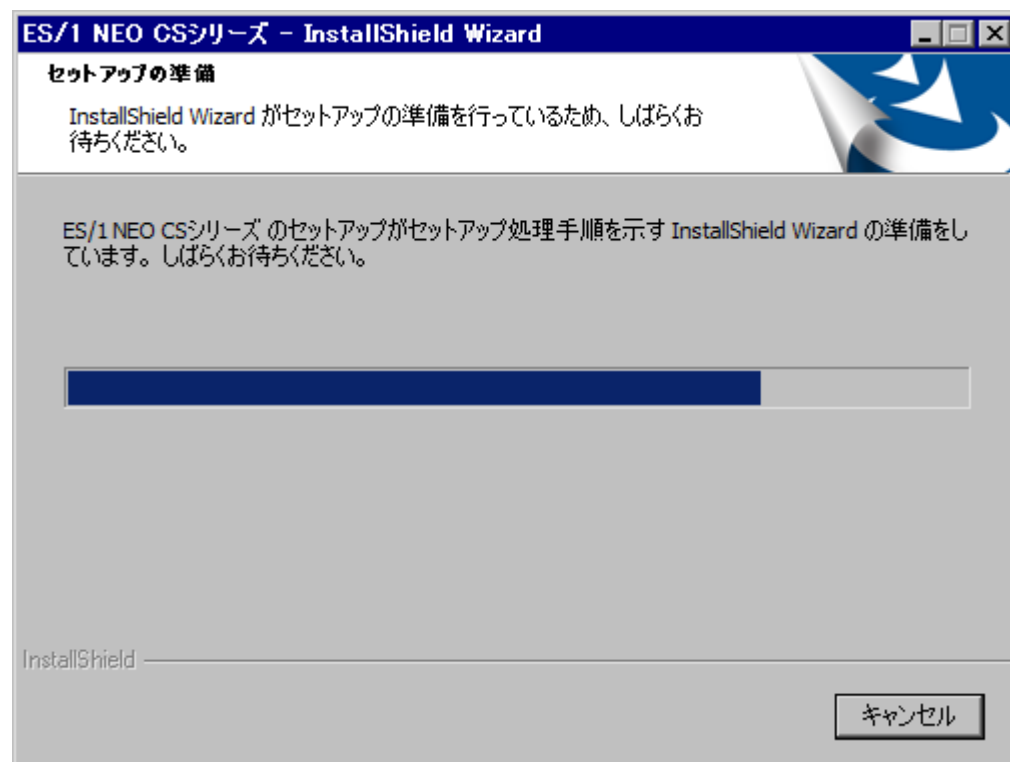
セットアップ DVD「x:¥V05LxxRx¥Tools¥Adobe Reader¥AdbeRdr11010_ja_JP.exe」をご利用ください。

(4)Exit

セットアップを終了します。

3.3. セットアップの実行

前頁の「Expert System / One NEO」画面にて、「CS シリーズ セットアップ(S)」を選択すると、インストーラが起動します。



新規インストール、バージョンアップインストールそれぞれについて説明します。
セットアップ形態に応じ、各節を参照してください。

新規でインストールする場合

「3.3.1. 新規インストール」

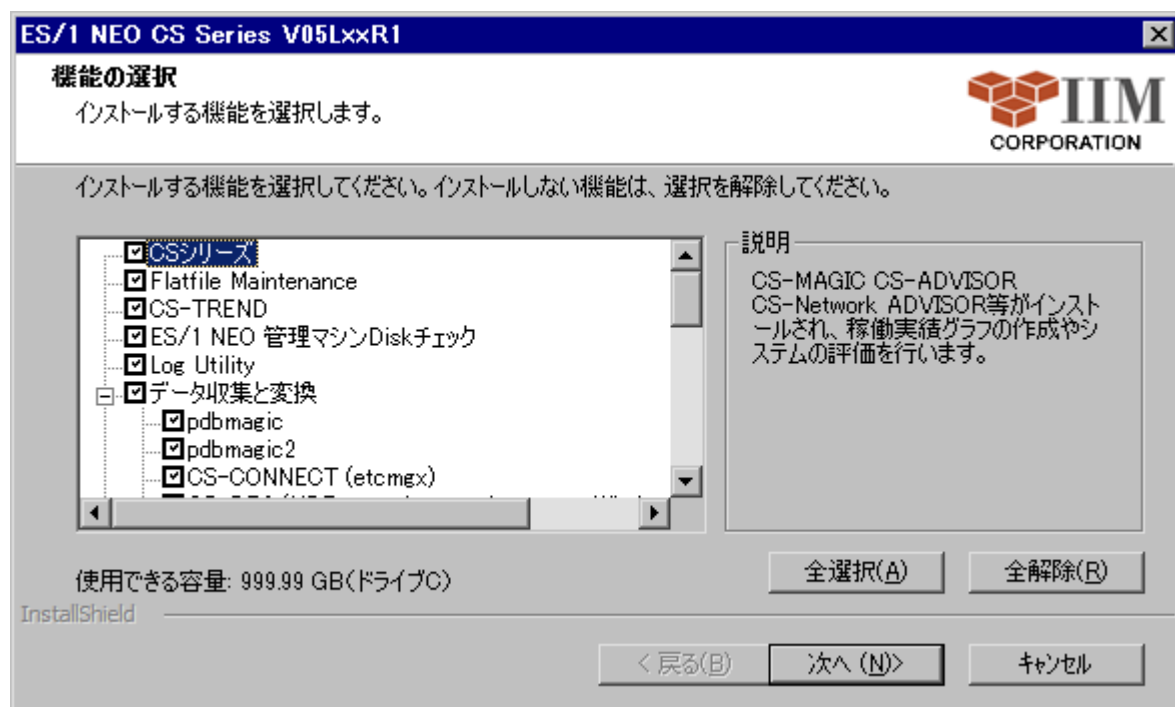
バージョンアップでインストールする場合

「3.3.2. バージョンアップインストール」

3.3.1. 新規インストール

(1) 導入プロダクト選択

導入するプロダクトを選択します。



① 全選択(A)

すべてのプロダクトを選択します。

② 全解除(R)

すべてのプロダクトの選択を解除します。

(2) インストールフォルダ指定とオプション指定

インストールフォルダの指定と、オプションを指定します。



① プログラムファイル

プログラムファイル群を格納するベースフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品のサブフォルダが生成され、各種ファイルが格納されます。

インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

初期状態では「C:\IIM」が選択されています。

注意!

フォルダを変更する場合は、2 バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

② データファイル

データファイル群を格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下にフラットファイルや生成物等が格納されます。

インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

初期状態では「C:\IIM_DATA」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。

③ワークファイル

ワークファイル群を格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品の間接ファイルが格納されます。インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

初期状態では「C:¥IIM_WORK」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。

④データベースファイル

Performance Web Service データベースを格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に DB ファイルが格納されます。

インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

初期状態では「C:¥IIM_DATA」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。

Performance Web Service データベースの初回導入時に指定可能です。

注意!

フォルダを変更する場合は、2 バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

⑤PWS ポート番号

iim pws tomcat を起動させるポート番号です。

初期状態では 8080 が表示されます。

Performance Web Service の初回導入時に入力可能です。

⑥収集対象の DB2 バージョン

パフォーマンスデータ収集対象となる DB2 のバージョンです。

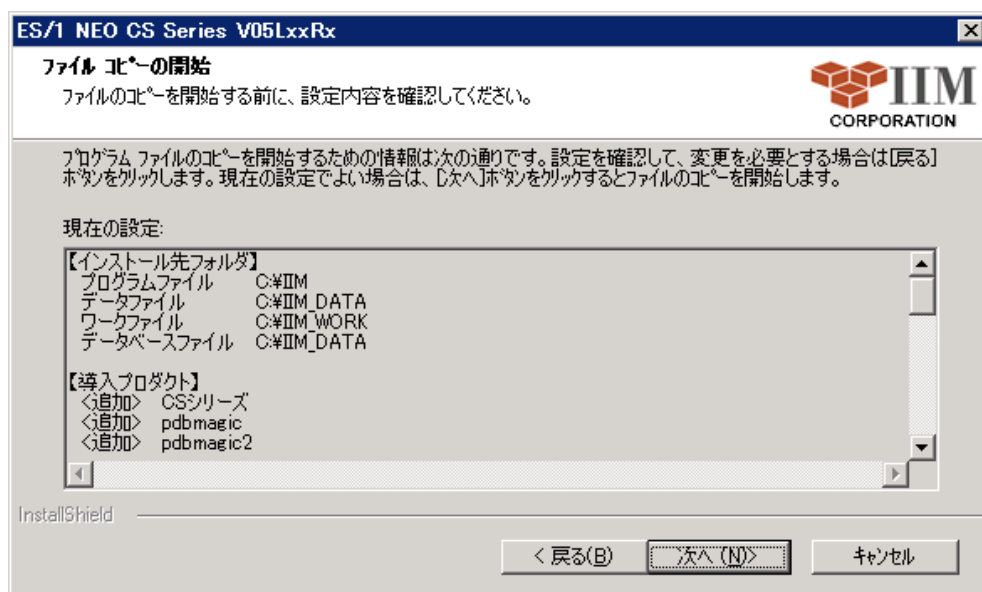
CS-DB2(UDB snapshot monitor agent)が収集対象としているバージョンは、11.5 以降になります。それ以前の DB2 バージョンについては非対応となっています。

DB2 V10.1 以降用 DB2 Enterprise Server Edition V10.1 以降用モジュール(現在選択できません)

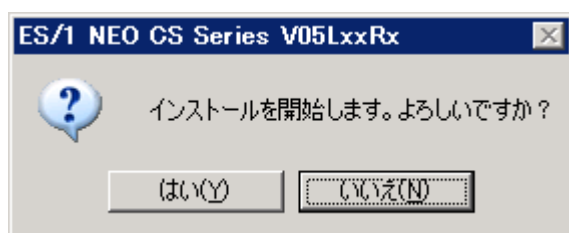
DB2 V11.5 以降用 DB2 Enterprise Server Edition V11.5 以降用モジュール

(3)インストール開始確認

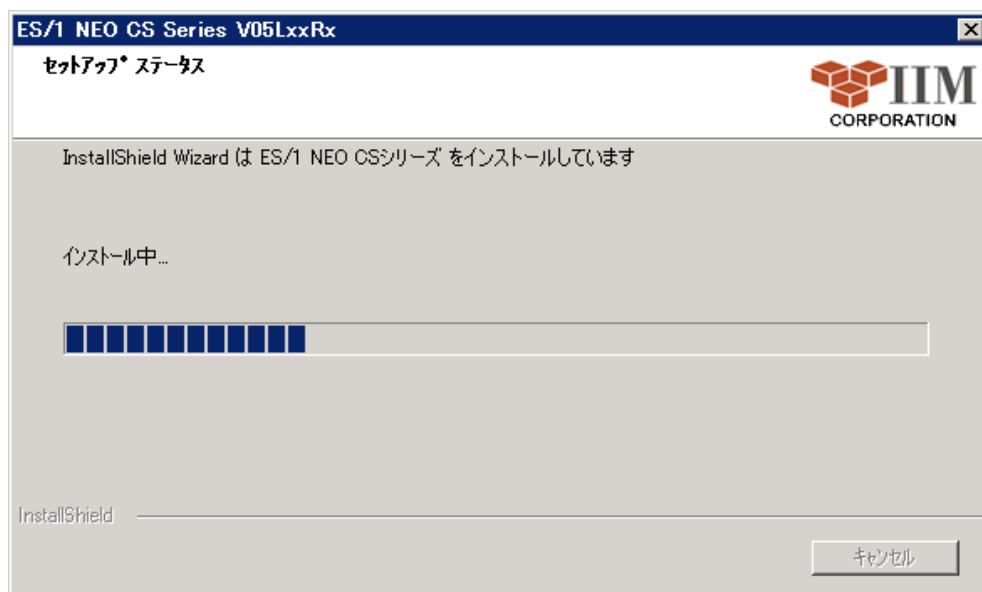
指定した導入先フォルダパス、選択プロダクトが一覧表示されます。



[次へ (N)>]ボタンを押下すると、インストール開始の確認メッセージが表示されます。

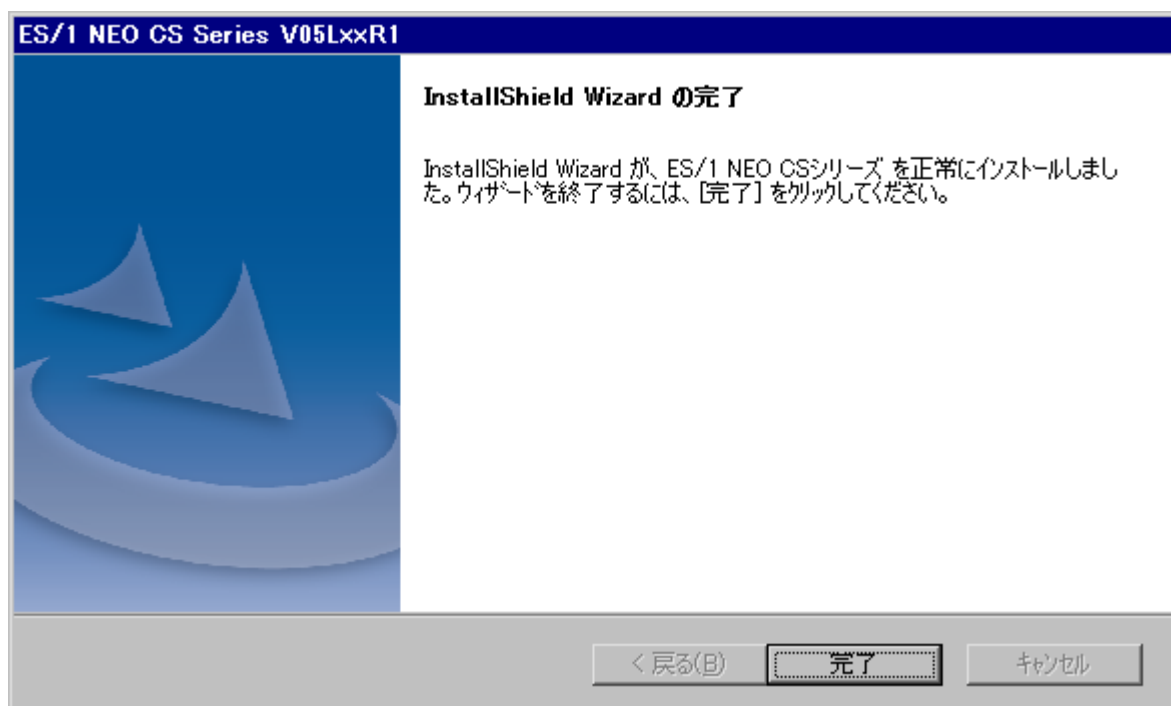


[はい(Y)]ボタンを押下すると、インストールを開始します。



(4)インストールの完了

セットアップが完了すると以下の画面が表示され、[完了]ボタン押下によって終了します。
インストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



ES/1 NEO CS シリーズの動作に必要な Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合、下記メッセージが表示されます。

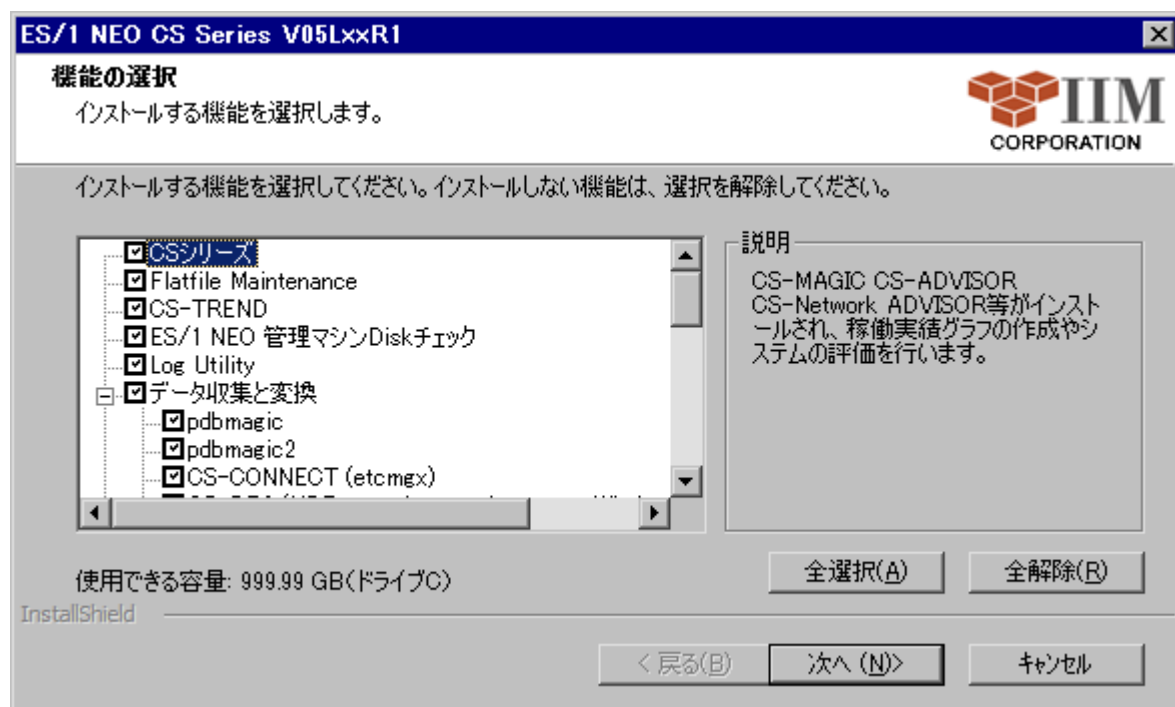


Microsoft .NET Framework 4.6.2 のインストールについては、「3.2. セットアップの起動 (2) Microsoft .NET Framework 4.6.2(N)」を参照してください。

3.3.2. バージョンアップインストール

(1) 導入プロダクト選択

導入するプロダクトを選択します。



① 全選択(A)

すべてのプロダクトを選択します。

② 全解除(R)

すべてのプロダクトの選択を解除します。

(2) インストールフォルダ指定とオプション指定

インストールフォルダの指定と、オプションを指定します。



① プログラムファイル

プログラムファイル群を格納するベースフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品のサブフォルダが生成され、各種ファイルが格納されます。

初期状態では、現在プロダクトが導入されているフォルダが表示されます。

バージョンアップインストールでは変更できません。

② データファイル

データファイル群を格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下にフラットファイルや生成物等が格納されます。

初期状態では、現在のデータフォルダが表示されます。

バージョンアップインストールでは変更できません。

③ ワークファイル

ワークファイル群を格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品の間接ファイルが格納されます。

初期状態では、現在のワークフォルダが表示されます。

バージョンアップインストールでは変更できません。

④データベースファイル

Performance Web Service データベースを格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に DB ファイルが格納されます。

インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

初期状態では「C:¥IIM_DATA」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。

Performance Web Service データベースの初回導入時に指定可能です。

注意!

フォルダを変更する場合は、2 バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

⑤PWS ポート番号

iim pws tomcat を起動させるポート番号です。

初期状態では 8080 が表示されます。

Performance Web Service の初回導入時に入力可能です。

⑥PWS DB バージョンアップ時のバックアップ

Performance Web Service のデータベースをバージョンアップする際、データベースファイルをバックアップしておくか否かの選択です。

前バージョンの Performance Web Service が導入されている場合に表示されます。

通常はバックアップを行う指定としてください。

⑦収集対象の DB2 バージョン

パフォーマンスデータ収集対象となる DB2 のバージョンです。

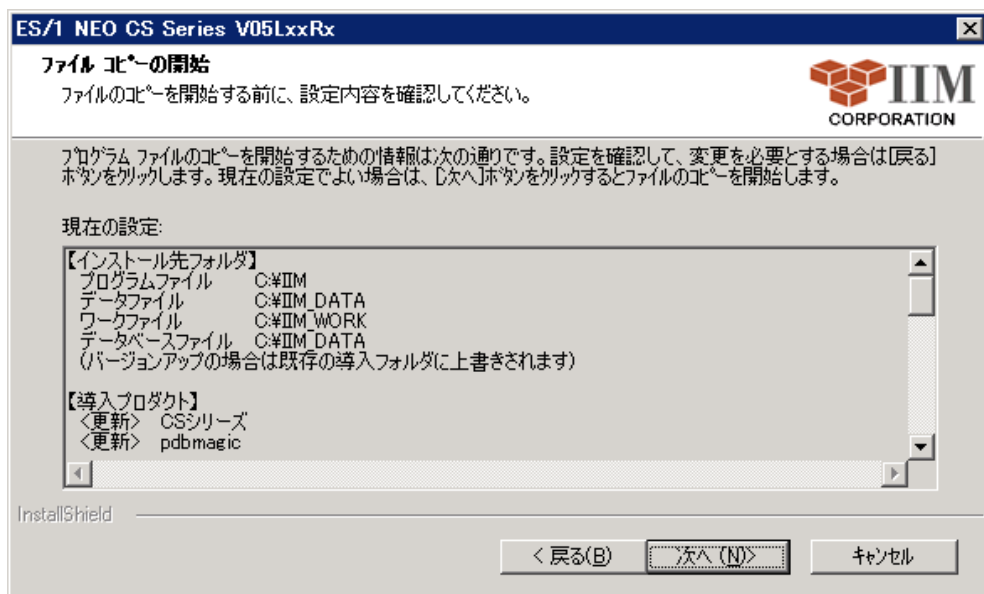
CS-DB2(UDB snapshot monitor agent)が収集対象としているバージョンは、11.5 以降になります。それ以前の DB2 バージョンについては非対応となっています。

DB2 V10.1 以降用 DB2 Enterprise Server Edition V10.1 以降用モジュール(現在選択できません)

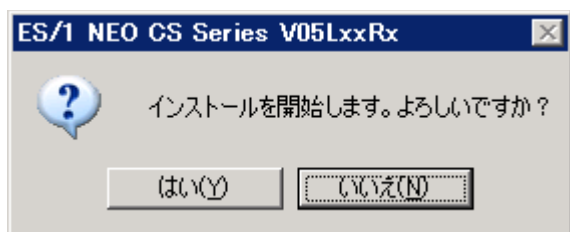
DB2 V11.5 以降用 DB2 Enterprise Server Edition V11.5 以降用モジュール

(3)インストール開始確認

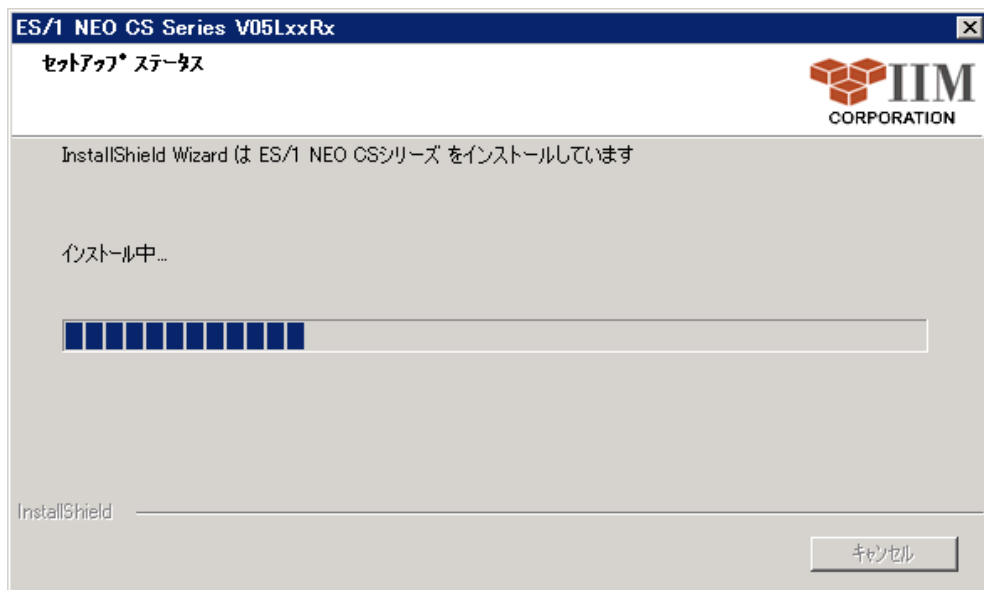
指定した導入先フォルダパス、選択プロダクトが一覧表示されます。



[次へ (N)>]ボタンを押下すると、インストール開始の確認メッセージが表示されます。

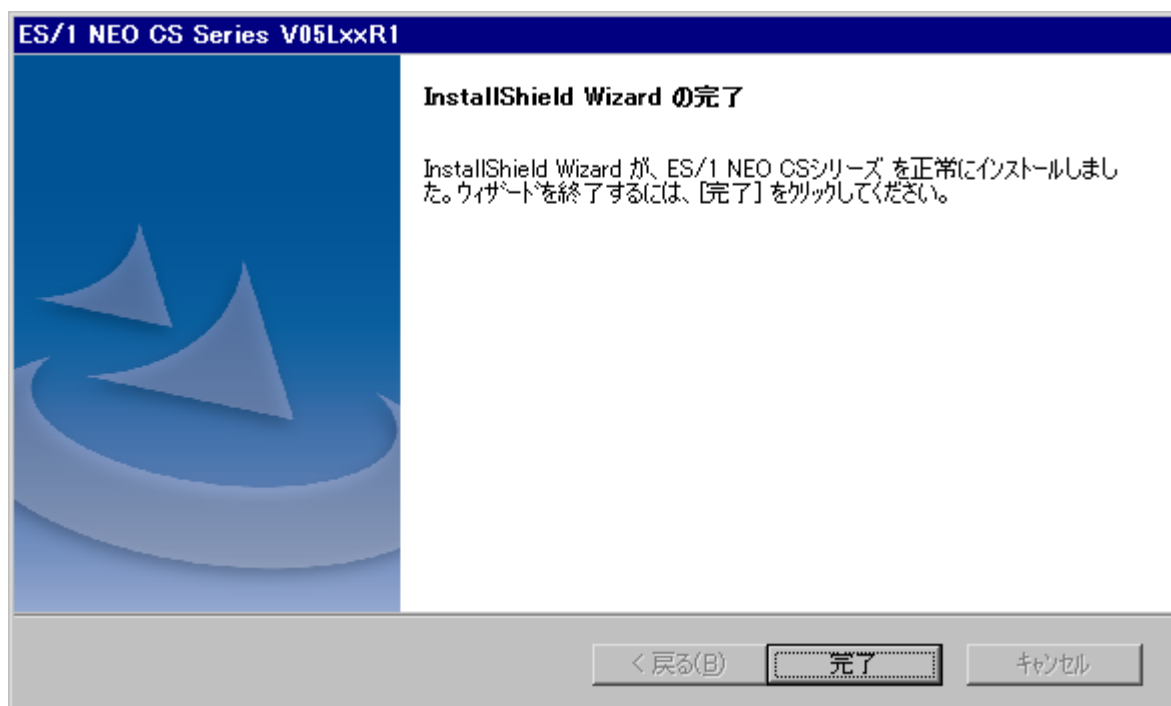


[はい(Y)]ボタンを押下すると、インストールを開始します。



(4)インストールの完了

セットアップが完了すると以下の画面が表示され、[完了]ボタン押下によって終了します。
インストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



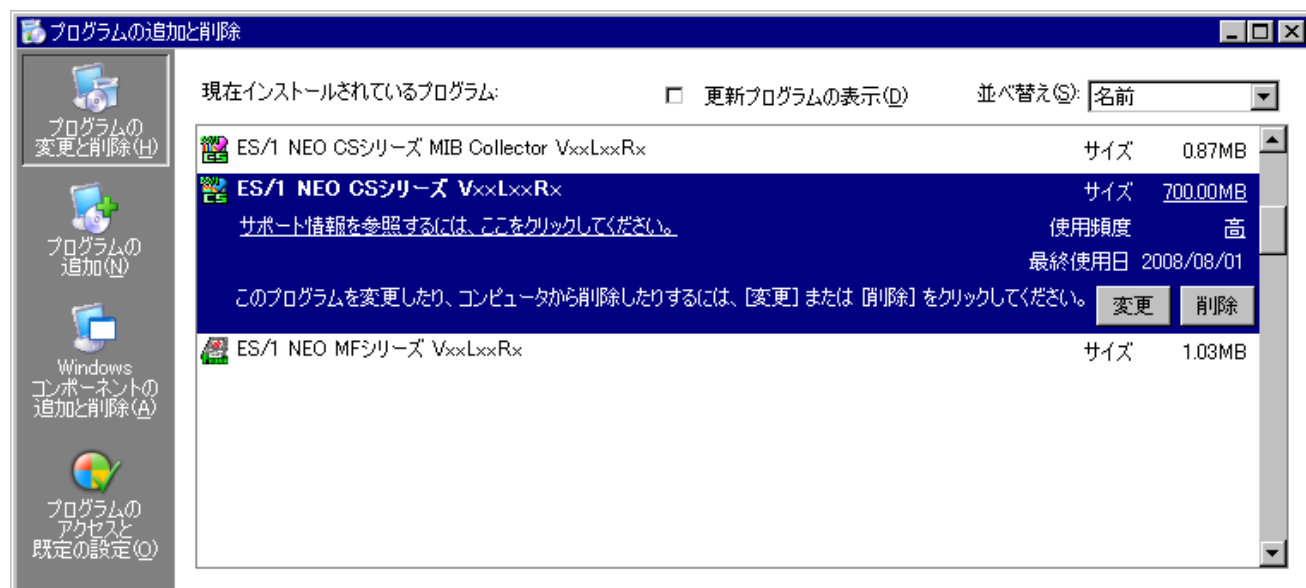
ES/1 NEO CS シリーズの動作に必要な.NET Framework がインストールされていない場合、下記メッセージが表示されます。



Microsoft .NET Framework 4.6.2 のインストールについては、「3.2. セットアップの起動 (2) Microsoft .NET Framework 4.6.2(N)」を参照してください。

第4章 ES/1 NEO CS シリーズのプロダクト追加と削除

プロダクトを追加導入したり、不要なプロダクトを削除したり、導入したプロダクトを一括してアンインストールしたりします。コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO CS シリーズ VxxLxxRx」を選択します。



(1)[変更]ボタン

新たなプロダクトの追加や、インストール済プロダクトの削除を行います。

また、前回行ったセットアップを、同一内容でもう1度実行する場合もここを押下します。

「4.1. 変更／修正」を参照してください。

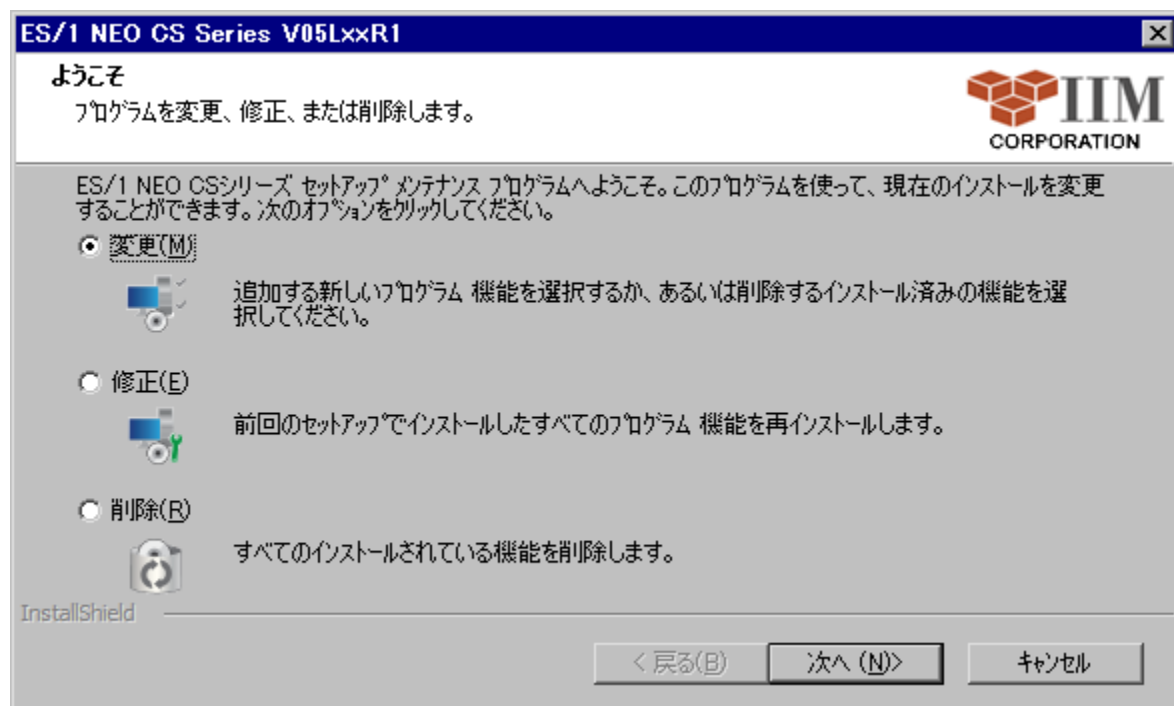
(2)[削除]ボタン

ES/1 NEO CS シリーズをアンインストールします。

「4.2. 削除」を参照してください。

4.1. 変更／修正

新たにプロダクトを追加導入したり、不要なプロダクトを削除したりする場合、「変更」を行います。
「プログラムの追加と削除」画面にて[変更]ボタンを押下すると、以下の画面が表示されます。

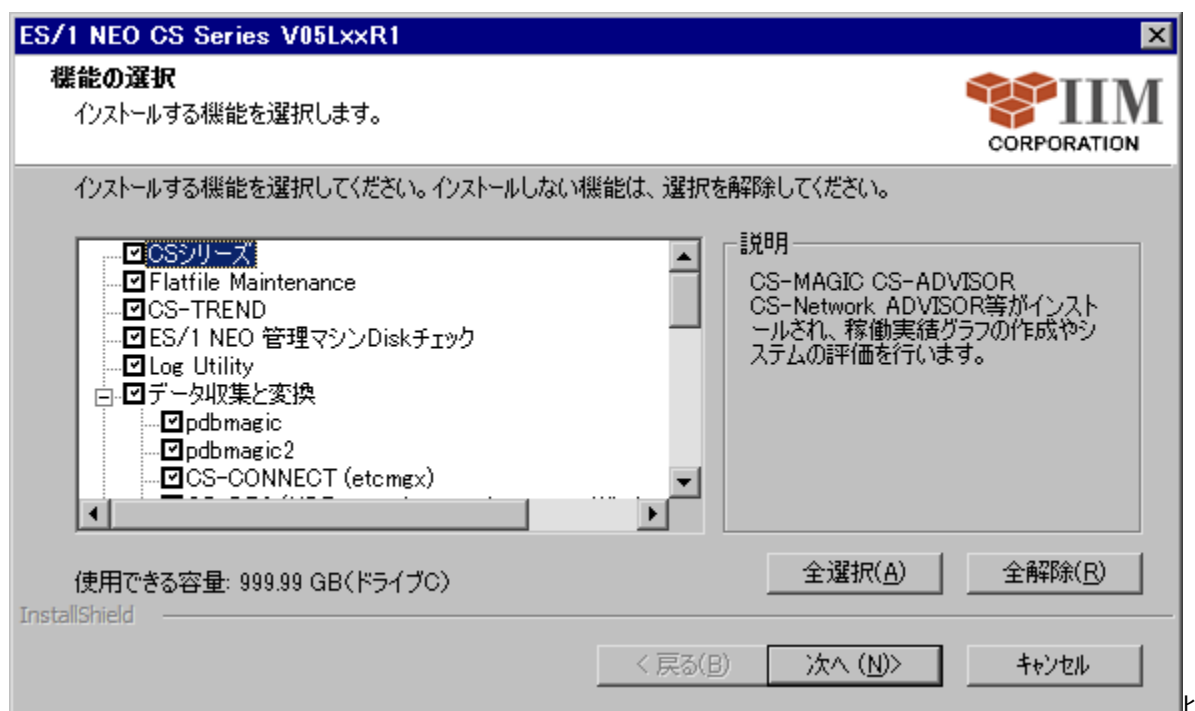


ここで「変更(M)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンを押下すると、インストールされているプロダクトがチェックされた状態で一覧が表示されます。

「修正(E)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンを押下すると、インストールされているプロダクトのファイルを再度コピーします。ファイルが破損してしまった場合などに使用します。

コンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。

●「変更(M)」を選択した場合



追加するプロダクトをチェック、または削除するプロダクトのチェックを外します。

[次へ(N) >] ボタンを押下すると、インストールフォルダ指定とオプション指定画面と、インストール開始確認画面が表示されます。

インストール開始確認画面で、[次へ(N) >] ボタンを押下すると、プロダクトのインストール、またはアンインストールが実行されます。

各画面についての詳細は、「第 3 章 ES/1 NEO CS シリーズの導入」を参照してください。

4.2. 削除

ES/1 NEO CS シリーズをアンインストールします。

ただし、インポート機能により取り込まれたフラットファイル群や、作成した CSV／グラフファイル群、評価結果ファイル群は削除されません。これらは手動で削除してください。

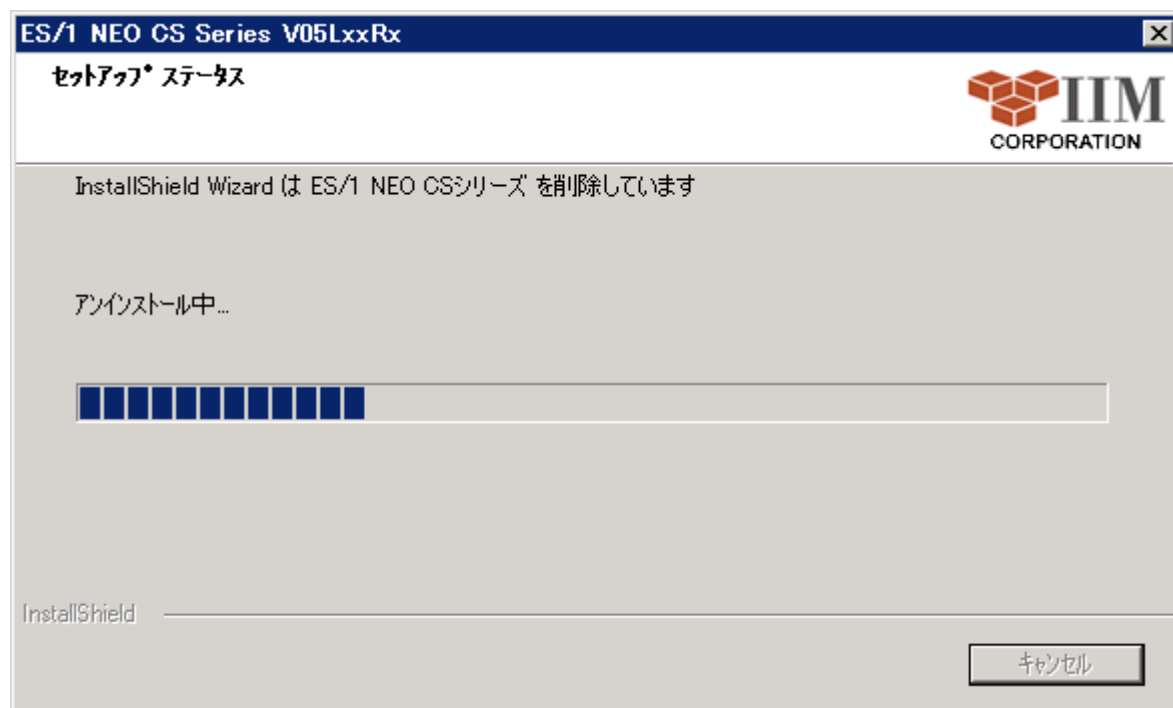
4.2.1. プログラムの追加と削除からのアンインストール

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO CS シリーズ VxxLxxRx」を選択します。

「削除」ボタンを押下すると、以下の確認メッセージが表示されます。

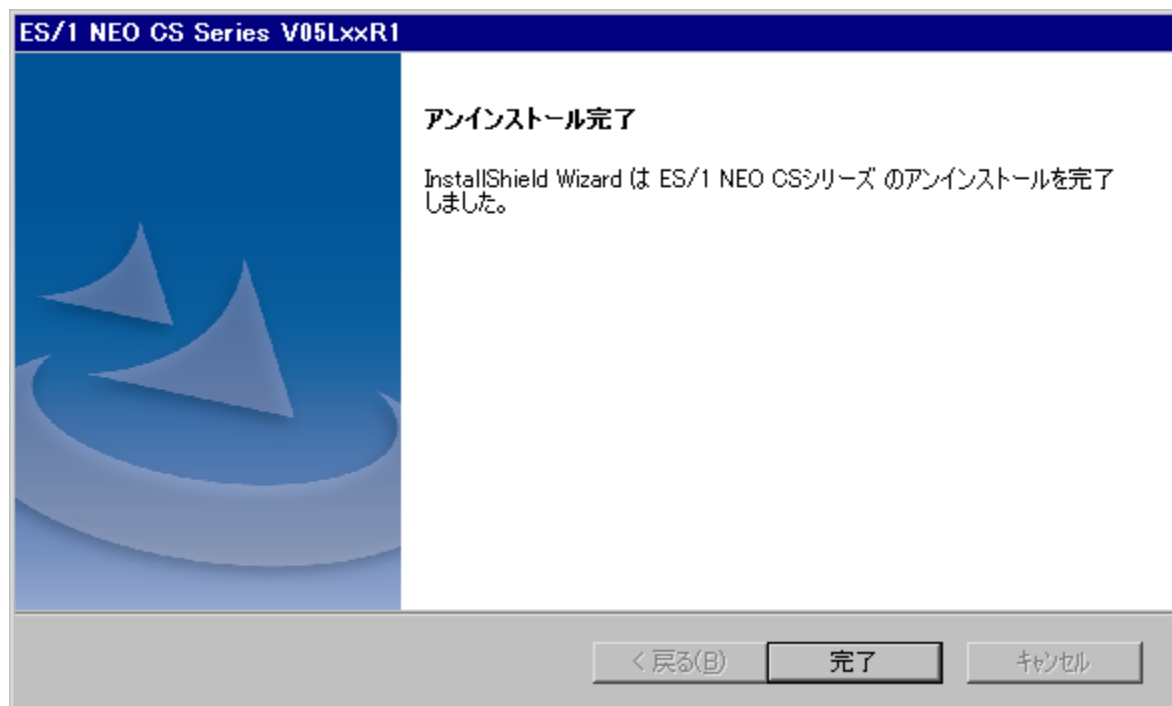


「はい(Y)」ボタンを選択すると、アンインストールが実行されます。



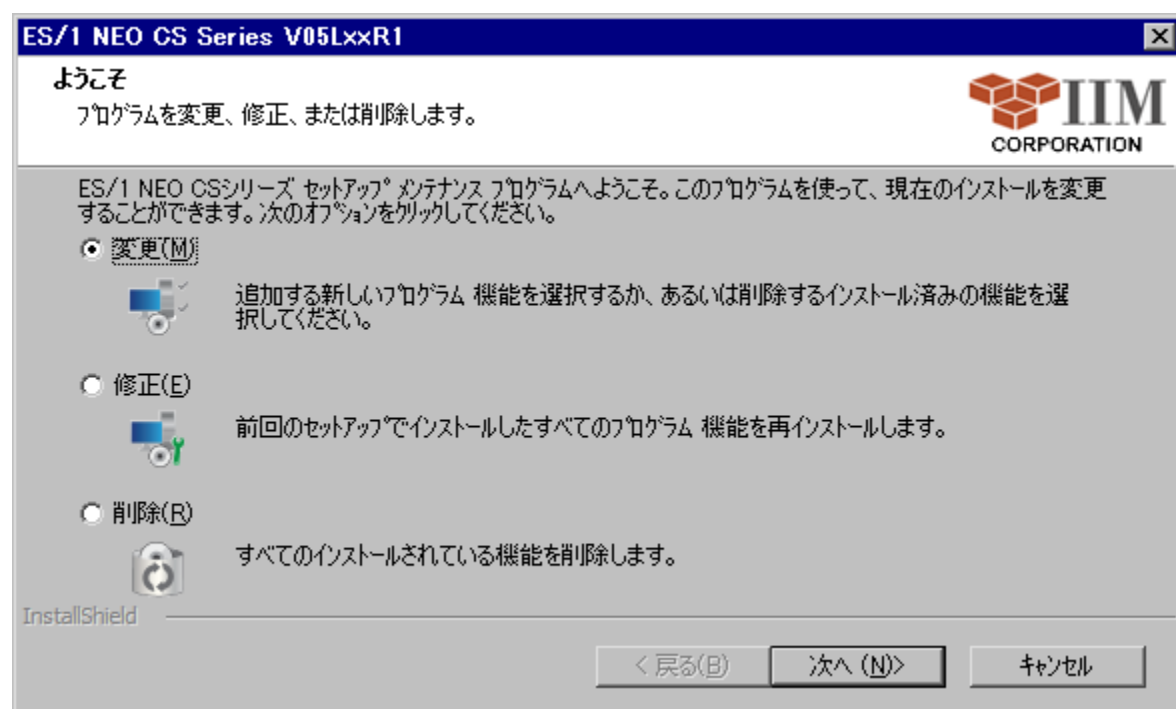
以下の画面が表示されたらアンインストール完了です。

アンインストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



4.2.2. メンテナンスプログラム画面からのアンインストール

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO CS シリーズ VxxLxxRx」を選択します。
[変更] ボタンを押下すると、以下の画面が表示されます。



ここで「削除(R)」を選択し、[次へ (N) >] ボタンを押下すると、削除の確認メッセージが表示されます。



[はい(Y)] ボタンを選択すると、アンインストールが実行されます。



以下の画面が表示されたらアンインストール完了です。

アンインストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。

